

令和元年度 太陽の家キャロット 自己評価結果(公表)

公表日 令和2年2月19日

社会福祉法人 光友会 太陽の家キャロット

		チェック項目	はい	いいえ		
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●構造化を行っているクラスは、活動スペースが十分ではなく、手狭であると感じる。 ●構造化で部屋を区切って使用する場合は、スペースが十分ではないと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○構造化クラスは、パーティションやワークエリアなどがあり、狭いと認識しています。 ○収納スペースが少なく、廊下等に置かざる得ない状況です。
	2	職員配置数は適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●児童10人に対して、基本職員3人で対応するのは、療育を行うという点で難しい場合がある。 ●クラスによって異なるが、年少クラスでは、親御さんへの対応も含め、もう少しゆとりのある職員配置で支援に当たることが望ましいと思う。 ●年少クラス10名(身辺自立が未熟)に対して、職員3人の配置では少ない。 ●職員3人では、活動時間をかんがえと、トイレの着脱など丁寧に関わることが出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国・市の配置基準以上に職員配置を行っていますが、児童の状況や活動内容によっては、配置不足を感じる場合があります。
	3	生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮がなされているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●児童の認知レベルにばらつきがあり、一人ひとりに合わせたクラスの運営が難しい。 ●階段の昇り降りがスムーズに出来ない児童のクラスが2階にあるのは適切ではない。 ●成人利用者と出入口が同じなため、ゆっくり靴の着脱が出来ない。 ●空調からの水漏れや3階からの浸水などあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもに分かりやすく、視覚的な配慮等の構造化に努めています。施設の老朽化が著しくバリアフリー化等は、十分ではありません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ●保育室や廊下の壁の塗料が剥がれるなど、見た目にも汚い印象。 ●壁や床に敷いているマットなど、清潔感を与えるものとは言い難い状態である。 ●天井から水漏れがするなど、安全性の部分でも問題があり、改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○建物は、既に44年を経過して老朽化しており、トイレなど修理・改修が続いています。 ○そのため、日々の清掃や消毒には、十分配慮しています。 ○施設再整備に向けて、利用者や保護者にアンケート調査を今年の7月に実施しています。 ○今後も継続的に施設再整備の調整を市と積極的に行っていく予定です。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参加しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●記録、バス添乗、洗濯等の役割分担があるので、クラス全員で話し合う機会を確保するのが難しかった。 ●児童発達支援管理責任者がクラスリーダーの役割を担っており、客観的に支援内容を把握するというのがなかなか出来なかった。 	
	6	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ○特にトイレ等の改修に関する保護者の要望が多くありますので、市の改修予算の確保に向けて調整を行っています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公表しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度から自己評価と保護者評価を実施しています。評価結果は、ホームページ、ファイル化するなどして、公表しています。 ○評価結果を踏まえ、改善努力に努めています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		<ul style="list-style-type: none"> ○第三者評価は受けていませんが、外部の療育の専門家を年2回招へいして、療育内容などの指導・助言を受ける機会を確保し、職員研修の位置付けで実施しています。

適切な支援の提供	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●KYTは割りと多くやっているが、他の研修も積極的にやって欲しい。 ●勤務後の自主的な勉強会は、良い取り組みであると思う。 	○今年度から階層別研修を実施し、階層ごとのテーマを設定して、グループワークを行っています。今までと違うスタイルの研修で、受講職員にも好評です。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			○全ケース定期的に関係職員が集まって、ケース検討会を開催して個別支援計画を作成しています。総合的な評価に努めています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		○現在、統一・標準化されたアセスメントツールはありません。適切な支援を組み立てるために適切なアセスメントが必要不可欠です。必要なアセスメントツールを確保していきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			○各クラスの行動記録様式は、個別支援計画に沿った項目にしており、日常的な療育で支援計画を意識出来るように配慮しています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●今後は、クラス担任みんなで年間・月間の予定など、ある程度決められるようになると良いと思う。今は、その日のリーダーが決めている。 	○今年度から毎日定時に各クラス単位で打ち合わせを行うようにしました。出来ない場合もありますが、定着を図るべく指導に努めています。
	15	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●集団での活動を行いつつ、個別又は小集団活動も取り入れたが、これが出来るのは、保護者の関わりや児童らの落ち着き状態などによって左右される状況であった。 	
	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			○支援開始前の朝の打ち合わせは、各クラスとも定着しています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の振り返り、気付いた点等を共有しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●終了後、出来るだけ職員間で情報交換・共有を行うように心掛けているが、日々の打ち合わせという形では実施出来ていない。 ●記録等の事務的な作業に追われ、話し合いを十分行えない。 ●今後は出来るだけ話し合いの時間を確保し、支援に活かしていきたいと考えている。 ●毎日行いたいと考えているが、十分なレベルで行うことが出来ない。 ●日々の評価表を仕上げる中で、間接的に情報共有が出来ることがあった。 	○支援終了後の振り返り等の大切さを認識しており、支障のない限り、一日の振り返りを行うようにしています。

	19	日々の支援に関して記録を取 ることを徹底し、支援の検証・ 改善につなげているか	○		●個別課題を行った時には、日々の評価表とは異なる様式を使用し、個 別課題の評価と次回に必要な設定方法などを記入している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、 児童発達支援計画の見直し の必要性を判断しているか	○			○児発管やクラス担当者 だけではなく、PT、OT、S T、心理等の関係職員全 員で個別の検討会を開催 して、総合的な視点に基 づいて、個別支援計画を 策定しています。
関係機関や保護者との連携関係	21	障害児相談支援事業所の サービス担当者会議にその子 どもの状況に精通した最もふ さわしい者が出席しているか	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支 援等の関係者や関係機関と 連携した支援を行っているか	○		●併行通園児童の幼稚園や保育園を相互に訪問するなどして、様子を 観察したり、他事業所との会議を開催するなど、関係機関との連携に努 めた。	
	23	(医療的ケアが必要な子ども や重症心身障害のある子ども 等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福 祉、保育、教育等の関係機関 と連携した支援を行っている か	○		●重症心身クラスではないため、他の医療機関との関わりはないが、保 護者から通院時の話を聞くようにしている。	
	24	(医療的ケアが必要な子ども や重症心身障害のある子ども 等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機 関等と連絡体制を整えている か	○			
	25	移行支援として、保育所や認 定子ども園、幼稚園、特別支 援学校(幼稚部)等との間で支 援内容等の情報共有と相互 理解を図っているか	○			
	26	移行支援として、小学校や特 別支援学校(小学部)との間 で、支援内容等の情報共有と 相互理解を図っているか	○		●特別支援学校との引継ぎなどは実施しているが、支援級や普通級と の引継ぎは行っていない。全ての学校と引継ぎが出来れば良いと思う。	
	27	他の児童発達支援センターや 児童発達支援事業所、発達障 害者支援センター等の専門機 関と連携し、助言や研修を受 けているか	○		●他の先進施設との交換研修や施設見学を行うことが出来て勉強に なった。交換研修の頻度ももっと増やせればよいと思う。	○今年度から市内の他 児童発達支援センターと 交流研修を開始し、相互 理解と啓発に努め、連 携・協力を強める取り組 みを始めています。
	28	保育所や認定子ども園、幼稚 園等との交流や障害のない子 どもと活動する機会があるか	○			
	29	自立支援協議会子ども部会や 地域の子ども・子育て会議等 へ積極的に参加しているか	○			

保護者への説明責任等	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○				
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者等に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ●園として行えていると思う。児童の参加が不可なので、キャラットの保護者は参加したくても参加できないことが多い。どのようにしたら保護者教室に参加出来るか検討したい。 ●保護者教室を録画して、適時上映会を開催する、或いは児童の預かりを行うなども必要ではないか。 	○保護者が子どもの障害理解を進めることは、非常に大切なことです。その意味で保護者教室等を充実させることに対して、園として努力を続けています。	
	32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○				
	34	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○				○定期的に保護者との面談機会を設定するとともに、面談希望の有無に関わらず、助言等が必要と思われた場合は、面談、電話、家庭訪問等により迅速に対応している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●クラスの保護者間の交流は自然に出来上がっているが、他クラスの保護者との交流は、余りないと思う。 ●保護者の茶話会のようなものが年に何回かあれば良いと感じる。 		
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速に対応しているか	○				
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に発信しているか	○		●キャラットも年度の始まる前に行事予定を立てられると、バタバタなくて良いのにと感じた。年間計画的なものが必要であったと思う。		
	38	個人情報の取り扱いに十分配慮しているか	○				○USBメモリ等を廃止し、サーバーに切り替えるなど、個人情報の取り扱いには、十分配慮しています。○個人情報の入った書類を配布する場合など必ずWチェックしてザックに入れるようにしています。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○				
40	事業所の行事に地域の住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●太陽の家まつりは、地域の方の参加もあるが、その他の行事では、地域交流はない。 ●併行通園の幼稚園児などとの交流機会があれば、もっと理解が深まるのではないかと感じた。 			

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を作成し、職員や保護者等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●毎月1回定期的に避難訓練を行っている。 ●感染症マニュアルを作成したり、感染症研修会を定期的実施している。 	○津波や洪水等の大規模災害が発生した場合のマニュアル整備の必要性を認め、様々な非常災害を想定したマニュアル整備に向けて、鋭意準備を進めています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		●年1回、総合防災訓練を実施し、起震車や煙訓練などを行っている。	
	43	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			○ヒヤリハットを集計してグラフ化するなど、リスクの状況を職員に周知し、リスクを回避する取り組みを継続的に行っています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保するなど、適切な対応をしているか	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもの保護者に事前に説明し、了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			○身体拘束に当たる行為は一切行っていません。座位保持ベルトを使う場合は、整形外科医の指示を受け、保護者の同意を得て対応しています。これは個別支援計画にも記載しています。